

# 備陽史探訪

古墳めぐり特別号  
発行  
備陽史探訪の会  
福山市多治米町5-19-8  
TEL. (084)953-6215

## 祝『親と子の古墳めぐり』二五周年

会長 田口 義之

今、古い会報を手に、過ぎ去った日を想い、明日を考えている。本会は、昨年、会はじまって以来の大事業である「福山古墳ロード」整備事業に取り掛かり、前半の整備を終えた。今年もその後半の事業に向けて体制を整えつつある現状だ。

この事業を提案するとき、古墳ロードの整備は、会を設立したときからの夢だったと述べた。そして、この事業は「親と子の古墳めぐり」から産まれたことをお話した。

「親と子の古墳めぐり」は、本会の年間行事の中で最大の規模と内容をもつイベントである。毎年五月五日の「子どもの日」に実施し、古い会員は、一度は家族との板ばさみになって悩んだはずだ。

四半世紀の中でずいぶん記憶が遠のいてしまったが、古い会報を開くと、古墳めぐりの企画が芽生えたのは、

創立当初にさかのぼるようだ。会を始めた頃、メンバーは若く、柔軟な頭からは次々と新鮮な企画が産まれた。現在に続く会員の企画案内による「例会」、歴史講演会、古墳・城郭の研究部会……。会報一〇号の中で神谷名誉会長はこう述べている。

「備陽史探訪の会を発足させた当時の常連のメンバーと云っても、四、五人しかおりませんでした。誰かが共通の念願というか、将来の計画の中に、この「親と子の古墳めぐり」が入っていました。会長の私自身、この計画をどうしても実行に移したいという強い願望を持っていました。また、こうも述べられている「しかし、少しでも早く実行に移したいと願う反面、略色々と大変な問題を本会が抱え込むことになり、計画は立てながら、いつも二の足を踏んでいました」それはそうであろう、本会は創立

間もなく、確か会員数も五〇名を越えていなかったはずだ。だから、事前の準備は、念には念を入れて行った。会合も四、五回は持ったと思う。コースは最初から近田駅から服部大池を通って駅家駅までが候補に挙がっていたと思う（古墳ロードのコースである）。最初の挑戦ということでは会員は相当緊張していたと思う。幸い天候にも恵まれ、一二〇名の参加者も得て、無事に終えることが出来た。

この時はNHKも取材に来て、駅前「養老の滝」でテレビに映った自分たちの姿を見て、万歳三唱したことは何度か述べた。それだけ初回の印象は古い会員の頭の中に強烈に残っている。以来、今日まで毎年欠かさず実施し、一度も事故を起こさなかったのは我々の大きな誇りである。

四半世紀の歴史を持つ「親と子の古墳めぐり」、色んな思い出がある。二、三述べて私の挨拶の締めくくりとしたい。

今までの古墳めぐりで一番参加者が多かったのは第二回のときである。コースは「津之郷―赤坂コース」だ。この時は何と約二〇〇名が参加した。一口に二〇〇というが、これは大変な数であった。このコースは福山駅前から路線バスを利用して津之郷町の「谷尻バス停」で降り、徒歩でJ

Rの赤坂駅に向かう。二〇〇名が一台のバスに乗れるはずが無い。確かバス会社と交渉して、臨時便を四台ほど出してもらったと思う。二〇〇名が行列を組んで歩くのは壮観であった。この時の思い出は篠原さんが始めて参加されたことだろう。同氏が昔懐かしいズックのリュックを背負ってこられたのが印象的だ（あのリュック今もあるのか気になるところだ）。

野外の行事だから、いつも頭を悩ますのは天候である。幸い「雨で中止」になったことは無いが、危うかったことが二度ある。最初は三回目だ。ルートは神辺の大坊古墳から加茂の石鎚山古墳に抜けるコースで、出発時点では雨は降っていないが、次第に雲行きが怪しくなり、加茂谷に入った頃から雨になってしまった。二度目は、平成二年の「第八回」である。服部の北塚から二子塚までのコースで、朝まで雨が降り、散々悩んだ末、「雨のち晴れ」の天気予報を信じて決行した。雨は、バスが現地に着く頃には上がり、十時頃には見事な青空が広がった。この時には連絡の不備から、一つの班全員が欠席、臨時便が定刻に出て、一台のバスに全員スズメという「おまけ」までついて、参加者に強烈な印象を残した。

親と子の古墳めぐり実施記録

回数	実施年度	コース	参加人数
第一回	一九八三(昭和五八)年	駅家南コース	一二六名
第二回	一九八四(昭和五九)年	津之郷く赤坂コース	二〇二名
第三回	一九八五(昭和六十)年	神辺く加茂コース	六九名
第四回	一九八六(昭和六一)年	神辺コース	五六名
第五回	一九八七(昭和六二)年	駅家南コース	一〇一名
第六回	一九八八(昭和六三)年	津之郷く赤坂コース	一〇三名
第七回	一九八九(平成二)年	加茂く駅家コース	一一七名
第八回	一九九〇(平成二)年	駅家北コース	一〇三名
第九回	一九九一(平成三)年	神辺く加茂コース	六八名
第十回	一九九二(平成四)年	十周年記念特別コース(バス) 曾根田白塚古墳く尾市第一号古墳	一〇〇名
第十一回	一九九三(平成五)年	津之郷く赤坂コース	九〇名
第十二回	一九九四(平成六)年	神辺コース	一三〇名
第十三回	一九九五(平成七)年	神辺く加茂コース	一三〇名
第十四回	一九九六(平成八)年	加茂く駅家コース	一三〇名
第十五回	一九九七(平成九)年	駅家北コース	七〇名
第十六回	一九九八(平成十)年	松永南コース	一六〇名
第十七回	一九九九(平成十一)年	神辺コース	一二五名
第十八回	二〇〇〇(平成十二)年	神辺く加茂コース	一二〇名
第十九回	二〇〇一(平成十三)年	津之郷く赤坂コース	一四四名
第二〇回	二〇〇二(平成十四)年	二十周年記念新設コース 松永北コース	一〇七名
第二一回	二〇〇三(平成十五)年	駅家北コース	一一六名
第二二回	二〇〇四(平成十六)年	加茂く駅家コース	六八名
第二三回	二〇〇五(平成十七)年	松永南コース	一二五名
第二四回	二〇〇六(平成十八)年	神辺コース	九六名
第二五回	二〇〇七(平成十九)年	二十五周年記念特別コース(バス) 吉備路	

各コースの詳細についてはつぎのとおりです。

◎ 駅家南コース

福塩線近田駅

二子塚古墳 (広島県史跡)

：平野に向かって東に延びる丘陵の頂上に造られていて、周辺の平野をほとんど見渡すことが出来ます。古墳の形は前方後円墳で、周りの周溝を含むと長さは七三mになります。この古墳は芦田川流域では最大の古墳で、しかも最後に造られた前方後円墳です。墳丘は違う性質の土を交互に積み固めた「版築」という技術で丈夫に造られています。埋葬施設は両袖式の横穴式石室で、玄室と通路の羨道があり、羨道にはさらに墓道が続いていました。

石室は、長さが羨道まで十四・九m、墓道を含めると二一・三〜二四・八m。玄室の長さ六・八m、幅二・五m、高さ三・三mという巨大なものです。石室には組合せ式の石棺の一部が残っていました。

副葬品は、土器類、馬具類そして環頭太刀の柄頭が見つかり、古墳の造り方や副葬品、そして石棺の石材などから畿内政権と関係の深い人物の墓と考えられています。造られたのは六世紀の終わり頃と考えられています。

宝塚古墳 (小山田第八号古墳)

：直径十五m、高さ三mの円墳で、後側の丘陵との境には古墳と丘陵を区別する溝があります。埋葬施設は片袖式の横穴式石室で、長さは七・七m、高さ二・二五mあり、天井に近づくほど少し狭くなっています。この古墳からは馬具・須恵器・鉄の刀などが見つかっています。六世紀後半に造られました。

狐塚古墳

：宝塚古墳の東尾根にあり、古墳の土盛りは流れてしまい袖のない横穴式石室が露出しています。この古墳は、元々は直径十五m、高さ三mほどの円墳だったと考えられています。六世紀後半以降に築かれたと考えられます。

権現塚古墳

山の神古墳 (広島県史跡)  
 …古墳の土盛りはなく横穴式石室の一部が露出し、その上に熊野神社を祀っています。地形から直径十五mを超える円墳と考えられ、石室は一部積み直されているものと思われれます。六世紀後半の古墳と考えられています。

二塚古墳  
 …直径十二m、高さ四mの円墳で片袖式の横穴式石室があります。横穴式石室は石の積み方や天井が高いこと、部屋がドーム状になっているなど古い形をしていることに特徴があります。長さ四・一m、幅二・九m、高さ三・三mの大きさです。ここからは馬具・鉄製品・須恵器・土師器などが見つかっています。造られたのは六世紀の前半頃と考えられています。

福塩線駅家駅  
 …石室のみ残っているので古墳の形は不明です。石室は広島県内でも有数の大型の横穴式石室で、残っている部分は長さ四m、高さ三・一m、幅二・四二mの大きさです。青銅器の鏡・玉類・馬具・武器・須恵器など多くの遺物が見つかっています。築造は六世紀の終わり頃と考えられています。

### ◎ 駅家北コース

中国バス「服部行き」永谷バス停

北塚古墳 (広島県史跡)

…この古墳は墳丘がなく、花崗岩で造られた組み合わせ式の家形石棺が残っています。土盛りがないため形や大きさはわかりませんが、石棺の形などから七世紀前半に造られたと考えられています。

大迫金環塚古墳 (広島県史跡)

…墳丘は後の時代に削られてはつきりしませんが、円墳か方墳と考えられています。埋葬施設は両袖式の横穴式石室で、大きな花崗岩の表面を平らに削って部屋を造っています。ここからは須恵器や金の耳飾

りが見つかっています。

服部大池

権現塚古墳

…古墳の土盛りはなく横穴式石室の一部が露出し、その上に熊野神社を祀っています。地形から直径十五mを超える円墳と考えられ、石室は一部積み直されているものと思われれます。六世紀後半の古墳と考えられています。

宝塚古墳 (小田第八号古墳)

…直径十五m、高さ三mの円墳で、後側の丘陵との境には古墳と丘陵を区別する溝があります。埋葬施設は片袖式の横穴式石室で、長さは七・七m、高さ二・二五mあり、天井に近づくほど少し狭くなっています。この古墳からは馬具・須恵器・鉄の刀などが見つかっています。六世紀後半に造られました。

二子塚古墳 (広島県史跡)

…平野に向かって東に延びる丘陵の頂上に造られていて、周辺の平野をほとんど見渡すことが出来ます。古墳の形は前方後円墳で、周りの周溝を含むと長さは七三mになります。この古墳は芦田川流域では最大の古墳で、しかも最後に造られた前方後円墳です。墳丘は違う性質の土を交互に積み固めた「版築」という技術で丈夫に造られています。埋葬施設は両袖式の横穴式石室で玄室と通路の羨道があり、羨道にはさらに墓道が続いていました。

石室は、長さが羨道までで十四・九m、墓道を含めると二二・三〇二四・八mです。玄室は、長さ六・八m、幅一・五m、高さ三・三mという巨大なものです。石室には組合せ式の石棺の一部が残っていました。副葬品では、土器類、馬具類そして環頭太刀の柄頭が見つかっています。古墳の造り方や副葬品、そして石棺の石材などから畿内政権と関係の深い人物の墓と考えられています。造られたのは六世紀の終わり頃と考えられています。

福塩線近田駅

# ◎加茂町く駅家町コース

## 東城別れバス停

### 猪の子第一号古墳 (広島県史跡)

…花崗岩の切石を組み合わせてつくった遺体を入れる小型の部屋を横口式石槨といいますが、猪の子第一号古墳はこの横口式石槨をもつ終末期古墳として有名な古墳です。横口式石槨の石と石の隙間には漆喰が残っています。古墳の形は不明ですが方墳の可能性が高いようです。七世紀後半の築造と考えられています。

### 正福寺裏山古墳群

…二基の古墳からなります。第一号古墳は直径十六m、高さ二mの円墳です。堅穴式石室があり、水はけを良くする排水溝もありました。中からは中国製の鏡が見つっています。古墳時代前期につくられたと考えられます。

第二号古墳は芹田川流域では珍しい前方後方墳という形で、全長二九m、高さ三mの大きさです。発掘調査をしていないので詳しいことは分かっていませんが、古墳時代前期の築造と考えられています。

### 加茂倉田遺跡

…今は道路になって消滅していますが、弥生時代く古墳時代の集団墓でした。

遺跡からは土壙墓約八十基、箱式石棺三基、石詰土壙墓四基が見つっています。

### 栗塚古墳の丘 (公園)

…栗塚古墳群と移築した狼塚2号墳、そして正福寺裏山第一号古墳の石室が復元されています。

### 掛迫第六号古墳

…全長四七m、高さ四mの前方後円墳(円墳との説もあります)。二基の堅穴式石室をもち中国製の鏡(三角縁神獣鏡を含む)・鉄製品・玉類が見つっています。四世紀の終わりから五世紀の初め頃の築造と考えられています。

## 二塚古墳

…石室のみ残っているため古墳の形は不明です。石室は広島県内でも有数の大型の横穴式石室で、残っている部分は長さ四m、高さ三・一m、幅二・四二mの大きさです。青銅器の鏡・玉類・馬具・武器・須恵器など多くの遺物が見つっています。築造は六世紀の終わり頃と考えられています。

### 山の神古墳 (広島県史跡)

…直径十二m、高さ四mの円墳で、片袖式の横穴式石室があります。この横穴式石室は、石の積み方や天井が高いこと、部屋がドーム状になっているなど古い形をしている点に特徴があります。長さ四・一m、幅二・九m、高さ三・三mの大きさです。ここからは馬具・鉄製品・須恵器・土師器などが見つっています。造られたのは六世紀の前半頃と考えられています。

### 福塩線駅家駅

# ◎神辺く加茂コース

## 中条八幡神社

### 大坊古墳 (広島県史跡)

…七世紀初頭の古墳で、石柱によって羨道と玄室を区画した横穴式石室を持っています。石材は大きな花崗岩で、石の表面を削って、面を平らにする意識が見えます。古墳の形は方墳の可能性が高いようです。

### 安光古墳群

…丘陵の狭い範囲に六基の横穴式石室が確認できます。中心となるカン石古墳は、片袖式の横穴式石室を持つ比較的大きな円墳です。六世紀後半の築造と考えられます。

### 吹越古墳群

…現在は団地になって消滅してしまいましたが、菱原池から東に延びる尾根上にラクダの瘤のように八基の古墳が存在していました。方形

や円形のどれも小規模な古墳で、発掘調査により主体部は土壙墓や箱式石棺であることがわかりました。出土品には、鉄剣や鏃、玉類などが確認されています。五世紀前半から六世紀後半の在地色の濃い被葬者が想定されています。

**石鎚山古墳群 (広島県史跡)**

…丘陵の先端に位置するため視界が良く、遠く芦田川まで望むことが出来ます。

古墳時代前期の四世紀代の古墳として、広島県でも数少ない古墳のひとつです。第一号古墳は貼石のある二段築成の円墳(直径二十m)で、二基の竪穴式石室をもっています。発掘調査によって、中からは人骨と共に銅鏡(画文帯神獸鏡)、鉄の鏃、玉類など多くの副葬品を出土しました。

第二号古墳は第一号古墳の東隣りにあり、第一号古墳よりやや遅い時期に築造されました。主体部から割れた鏡の破片が見つかっていません。

**猪の子第1号古墳 (広島県史跡)**

…古墳時代も終わった飛鳥時代の古墳で終末期古墳と呼ばれているものです。

この終末期古墳は全国的に見ても数が少なく、ここ芦田川流域の狭い範囲に猪の子古墳をはじめとして三基の終末期古墳が存在するといふことは非常に珍しいことです。猪の子古墳は羨道より内部の方が狭く、ちょうど棺が入る程度の広さしか持たない点で特徴があります。石材は花崗岩で、表面をきれいに削り、石と石の間には漆喰が認められますから、当初は内部が白かった可能性が指摘されています。墳丘は現在円形に復元されていますが、方形だった可能性もあります。七世紀後半頃の築造と考えられています。

**東城分かれバス停**

**◎神辺コース**

**井原鉄道御領駅下車**

…近くの福山通運の倉庫がある一帯は、周囲に濠を三重に巡らせた弥生時代の集落(環濠集落)である御領遺跡

**法童寺古墳 (法童寺古墳群)**

…法童寺古墳群の中心的な古墳で、円墳に横穴式石室(長さ六m、幅一・七m、高さ一・五m)をもった六世紀後半の古墳です。

**備後国分寺**

…奈良時代に聖武天皇によって全国に作られた国分寺のなかで備後国のもので、一九七二年に発掘調査され、東西南北百八十mの範囲に塔・金堂・講堂が確認されました。

**国分寺裏山古墳群**

…国分寺の裏山にある古墳群で、横穴式石室や箱式石棺からなる小規模の古墳が現在四基確認できます。

**表山古墳群**

…国分寺裏山古墳群からさらに登っていくと、頂上付近に3基の古墳が存在します。第二号古墳は一九七二年に発掘調査されました。ゆがんだ円墳に箱式石棺をもち、中から玉類・二体の人骨が見つかります。五世紀の中頃から後半の古墳と考えられています。

**迫山古墳群 (広島県史跡)**

…迫山の南丘陵斜面にある十一基からなる古墳群です。第一号古墳は広島県内でも最大級の規模を誇る横穴式石室で、長さ十一・三m、幅二・五m、高さ二・八mの大きさです。一九八三年に発掘調査され、環頭太刀をはじめ武器、玉類、耳環等多くの副葬品が出土しました。中でも環頭柄頭は、畿内勢力との強い関係を伺わせる貴重なもので、この被葬者は畿内の勢力を背景にした有力な人物と考えられています。六世紀後半から末の築造と考えられています。

**小山池廃寺跡**

…小山池の北側に見つかった寺跡で、この池の南側には古代の山陽道が走っていたと考えられています。発掘調査の結果、東から金堂・塔・

講堂がほぼ一直線に並ぶという特徴を持っていることがわかりました。その範囲は東西約100mと推測されます。出土した瓦は、七世紀後半～奈良時代・平安時代のものであります。この寺跡の東に国分寺跡があることから、七世紀後半（白鳳時代）に建てられたお寺が奈良時代になって国分尼寺に使われたのではないかと考えられています。

**井原鉄道湯野駅**

…付近は、縄文時代後期から中世の時代の大きな宮遺跡で、注目されるのは弥生時代前期の環濠集落と古墳時代後期の大規模な建物群の跡です。

**◎津之郷コース**

**鞆鉄谷尻バス停**

**本谷遺跡**（福山市史跡：津之郷小学校）

…弥生時代の遺跡で、貨幣という中国に貨幣が見つかっています。また、古墳時代以後の土器も出ています。

**本谷古墳群**

…六基の横穴式石室を持つ古墳群で、いずれも円墳です。見学するのは第一号古墳（福山市史跡）で全長約9m、幅一・六五m、高さ一・七五mの大きさです。築造時期は六世紀後半です。

**坂部古墳群**

…六基の横穴式石室からなる古墳群で、いずれも円墳です。見学するのは第三号古墳と第四号古墳（福山市史跡）。第四号古墳は大きさが直径約8m、横穴式石室は全長8m、幅一・七九m、高さ一・七五mの大きさです。築造時期は六世紀後半です。

**スベリ石古墳**

…三基の横穴式石室をもつ古墳群で、見学するのは第一号古墳（福山市史跡）です。第一号古墳は直径約13mの円墳で全長九・五m、幅二m、高さ二・五mの片袖式の横穴式石室を持つ古墳です。鎌、斧、小刀、ヤリガンナなどを出土しています。六世紀前半頃の築造と考えられます。

**イコーカ古墳**

…直径二・五m、高さ約三mの円墳で、墳丘に二重の円筒埴輪がめぐっています。

**山陽本線備後赤坂駅**

…五世紀後半に築造された、と考えられています。

**◎藁江く松永コース**

**鞆鉄バス「金江行き」福山園芸センターバス停**

**元塚塚古墳**

…長さ六・一m・幅一・六m・高さ一・七mの横穴式石室で、袖のない無袖式横穴式石室が残っています。古墳の土盛りが流されているのはつきりしませんが、直径十五mくらいの円墳と考えられ、六世紀後半頃の築造と思われます。

**六ツ塚古墳群**

…六世紀後半に連続して築かれた古墳群で、六基の古墳が残っています。すべて円墳と思われる。最大のは四号墳で、長さ九・一m、幅一・三m、高さ一・七mの横穴式石室の古墳です。

**四ツ塚古墳群**

…畑の中にあり、いずれも横穴式石室をもつ小規模な古墳群で、現在四基が残っています。六ツ塚古墳群と同じように築かれたときはもつと多くの古墳があったと想像できます。これらの古墳は地域のリーダーというよりは、それらを支えた人たちの墓であると考えられます。

**立岩：天津磐境**（あまついわさか）

…古代の人々がお祭りをした所で、山の腹に大きな石を組み立てています。古代の人たちは高いところや大きな岩、木に神様がやっていると考えていました。この「立岩」からは松永湾が一望できること、山の頂上付近であることなどから古代の人々がお祭りをしていました。

西の塚古墳

：古墳の形は円墳と考えられ、直径8mです。それに長さ五・二五m、幅一・四m、高さ一・四mの横穴式石室があります。発掘調査により土器の破片や鉄釘、鉄滓（鉄のかす）などが見つかりました。この古墳は七世紀の初め頃に作られたと考えられています。

馬取貝塚

：松永湾の東にある縄文時代の貝塚です。ここから貝殻と共に縄文時代の土器や石器も見つかっています。土器の研究から、ここには縄文時代の早くから人々が住み始め、弥生時代に近くなると離れていったことがわかります。現在は貝塚の一部が保存されていますが、西日本地方は大規模な貝塚が少ないので必見です。

バス停・松永駅

◎松永北コース

JR松永駅・高諸神社

永松古墳

：丘陵の北斜面にある古墳で形は円墳です。内部主体は北側に口を開く横穴式石室で、玄室は天井に向かって狭くなるドーム状に造られています。この古墳からは須恵器、土師器という焼き物が出土しています。土器や横穴式石室の形から六世紀後半に造られたと考えられます。

鳥越第一号古墳

：永松古墳と同じ丘陵の頂上付近にあり、古墳の形は円墳と思われず。内部主体は横穴式石室で北側に開いています。六世紀後半の古墳と考えられます。

鳥越第二号古墳

：同じ丘陵の南側にあり、内部主体の横穴式石室も南に向いており、ここからは松永湾が見渡せます。六世紀後半の古墳と考えられます。

戸田一号古墳

：丘陵の頂上にあり、円墳に比較的大型の片袖式の横穴式石室を持つ古墳です。石室は全長九・三m、幅一・八m、高さ一・七mの大きさです。この古墳、前には松永湾が広がっていたが、なぜか西を向いて開いています。

長波古墳

：戸田一号古墳から東、ゆるやかな峠近くにある直径十八m、高さ四mの円墳で横穴式石室を持っています。特徴はこの横穴式石室で全長四m、幅二・六m、高さは現在一・八mの規模を持っていますが、石の大きさや積み方に特徴があります。人の頭より少し大きめの自然石を使いドーム状に積み上げています。これは横穴式石室でも古いタイプのもので、備後南部では一番古いもののひとつで同時代のものとしては駅家町の山の神古墳があるのみです。この古墳は六世紀の前半、中葉頃の築造と考えられています。

松本古墳（広島県史跡）

：神村八幡社の東約三百mのゆるやかな丘陵の先端付近にあり、ここからは松永湾と市街地を一望できます。墳丘は直径四八〜五十m、高さ七mの円墳で備後南部においては同時代の古墳の中でも突出した大きさを持っています。この古墳は北側に小さな造り出しを持つ可能性があり、二段築成とされています（以前は方墳とされていた）。墳頂の平坦面は直径二二〜二四mで墳頂部には埴輪があり、墳丘には葺石が露出しています。内部主体は東西に向く縦穴式石室で長さは約三・五mあります。付近には蓋石と見られる花崗岩が積み重ねられその上に小さな祠が祀られています。石室の内部構造は詳しくはわかりませんが遺物として朱文鏡、鉄剣、砥石が出土し、墳丘から須恵器、土師器、埴輪などが見つかっており、埴輪の中でも水鳥形の頭部の形象埴輪が特徴です。以上のことからここに葬られた人物は松永湾一帯に勢力を持っていた有力な豪族と考えられています。

JR松永駅

## 福山古墳ロード事業を想う

池田 健二

それは突然の事であった。六月の役員会の議題に『市民提案型まちづくり基金』の活用についてと田口会長の提案があった。市民提案型？基金？何の事やら分からなかったが、後から聞くと五月十三日の朝刊に募集記事が載っていたらしい。

田口会長が計画案を「当備陽史探訪の会の『親と子の古墳めぐり』も来年で第二十五回になるので、記念事業として古墳ロードを整備、会としての活動足跡を残し、会の活性化を図りたい」と説明。それについて急ぎよ役員全員で検討するも、なかなか意見がまとまらない。「会としては事業規模が大きすぎる」「大規模を一度にして完成しないと恥を搔く」「今年度の予算に計上していないのに問題だ」「会として金が無い」「参加する人が集まるか心配だ」「一部の人だけに負担が集中する」「地権者折衝を誰がするのかわからない」「他の行事に支障が出る」「申請に時間が無過ぎる」等など、意見轟々白熱すること。皆真剣に協議の結果、これが良かった。真剣に検討、意見を述べ、やるからには大変だぞ！と役

員全員が気を引き締める事が出来た。心配する人、不安がる人、早くもやる気になった人、でも誰一人反対が無く、条件付き賛成して田口会長案にて応募する事に決まった。私も出来るか不安いっぱいだったが、血液型O型の特徴「何とかなるだろう」と思うことにした。

早速六月八日の臨時役員会、六月九日の現地下見、六月十三日の申請書提出と忙しく、会長、事務局長の後を付いて歩く日々が始まった。

七月二日の市役所で開催されたプレゼンテーションには会長と出席、まちづくり事業応募数十九件の内、一次審査通過十四件にて開催。各事業プレゼンを熱く行い、我が備陽史探訪の会を含む十一事業が選考された。(参加した感想は、他の事業は祭りのグループのただ単に援助を求め、イベント一日だけの事業が多く、それが何故官民協働なのか疑問に感じたが、我が会の事業は会の為より地域、社会の為になり、完成後も継続的に残る他にはない良い事業と感じた)

選考されると、何しろ時間が無いので、真夏の七月、八月、九月と汗ダクダクに現地調査、そして、コース決定、道標説明板の設置個所の決定、同デザインの検討、説明板の内容調査、行

政との打合せ、地元町内会、JRとの折衝と息つく間もないような忙しい日々が続いたが、毎回会員十数名から二十名近く参加して汗した結果、道標の発注、案内板の市への委託にまでこぎつけ一安心。

いよいよ、最大の難関「地権者同意折衝」何処から手を付けたら良いか分からなかったが、何と、当会の地元有力者の尽力で一気に同意が貰えた。これで一気に完成の目処が付いた。また、JR、道路、公園は市の「協働のまちづくり課」が窓口になり、これも解決。最大の山をあつさり越える事が出来た。(知らないのは私だけで関係者の皆さんは大変な苦勞をされた事でしょう)それには、報道(新聞、テレビ、ラジオ)にたびたび取り上げられた事が、良い方に作用したと考えられる。

そして、いよいよ設置作業。当日一月、二月の一番寒いものにも関わらず沢山の会員が参加してくれて予想より簡単に設置作業が怪我無く出来た事は良かった。(当初は業者に設置を委託する予定がパンフ枚数を増やしたいので予算節約の為会員奉仕となった。↓結果、会員の活性化、一体感、親睦にもつながり非常に良かった)

また、一番嬉しかったのは、新聞を

見て地元一般の人が設置作業に来てくれた事。二月の設置作業日には「高塚古墳」になっていた地元設置看板が三月設置作業日には「宝塚古墳」に皆直っていた事。そして、JR駅前のゴミを片付けに市と共に往いたら、大きなゴミは撤去されていた事。見学会前日にコース確認、清掃に廻ったら、二子塚古墳の周囲が綺麗になつており、しかも古墳周囲も見学できるように草刈、ロープ張りまで出来ていた事。天気予報では式典当日は『雨』。絶対に降ると思いい、ブルーシート等を段取りしていたが、雨の見学会に人が来ないのではと心配した。しかし当日は曇りながら雨は降らず、当日駅前広場を埋める百七十名以上の人を目にした時。そして、講演会終了後、参加した一人が「今日コースを説明してくれた人は凄いな。何でも知っているな。良かったわ。あれがどう」と言ってくれた時。等どれもこれも一番嬉しかった事です。

地元の人々の事業に懸ける期待を感じる事ができ、事業をやった本当に良かったと思えました。

最後に、古墳ロード事業に支援協力して下さった、鈴木工務店、平和建設、アートくれない、NPO法人グリーンラインを愛する会、そして支柱を

第七回古墳ロード実行委員会

(参加 十六名)

三五、平成十九年一月二十、二十一日

(土・日)

道標設置作業(参加 十四名・

二〇名)

三六、平成十九年一月二三日(火)

道標設置後後片付け、追加発注。

三七、平成十九年二月二日(金)

第八回古墳ロード実行委員会

(参加 二十一名)

三八、平成十九年二月七日(水)

総合案内板 完成受け取り

三九、平成十九年二月八日(木)

行政打ち合わせ

四十、平成十九年二月十五日(木)

行政打ち合わせ

四一、平成十九年二月二十三(金)

総合案内板設置準備作業

四二、平成十九年二月二十四・二十

五日(土・日)

総合案内板設置作業(参加市一

名・十三名、市一名・十六名)

四三、平成十九年三月二日(金)

総合案内板設置後片付け(参加

市三名・五名)

四四、平成十九年三月二日(金)

第九回古墳ロード実行委員会

(参加二〇名)

四五、平成十九年三月九日(金)

行政 中間金交付

四六、平成十九年三月十三・十四

十六日

古墳ロードチラシ配布

(北部市民センター・公民館・

町内会)

四七、平成十九年三月十九日(月)

古墳パンフレット完成 配布

四八、平成十九年三月二十三日(金)

完成記念行事 準備(参加六名)

四九、平成十九年三月二十五日(日)

完成記念行事 除幕式、テープ

カット、見学会(参加一七〇名)

五十、平成十九年四月五日(木)

完成記念行事講演会(参加九十名)

行政 完成報告書提出

歴史民俗研究会現地学習会のご案内

岡山城下の寺社を訪ねる

五月の「歳時記を読む」は休みます。

代わりに左記の日程で現地学習会を

行います。参加ご希望の方は、五月

六日まで種本まで申し込んでください。

【実施要領】

《日時》五月二十日(日)

※雨天決行

《集合時間・場所》

午前七時五十分

福山駅北口バス乗り場

八時発九時三十分岡山市着

《参加費》三〇〇〇円

《申込》種本 実まで

(TEL 090・6431・7753)

《定員》先着 二〇名

《その他》昼食はご持参ください。

帰福午後六時頃の予定です。

《主な見学地》

「玉井宮と東照宮・国清寺・岡山

神社・瑞雲寺・伊勢神社など」

### 年会費納入のお願い

◎六月バス例会

### 水無月の広島をゆく

—もうひとつ別の広島を知る—

【実施要項】

《実施日》六月三日(日) 雨天決行

《集合時刻》八時一〇分

《集合場所》福山駅北口

《参加費用》会員 三五〇〇円

一般 三八〇〇円

《募集人数》四十三名

《申込方法》電話・FAX・メール

で事務局へ。

《講師》小林さなえさん(歴史研)

平田恵彦さん(歴史研)

《その他》弁当・飲物は各自持参

【主な探訪予定地】

▼千葉家住宅・庭園(海田町中居)

広島県指定文化財、庭園は県名勝

に指定されている。

▼国前寺(広島市東区山根町) 日

蓮宗の寺院。二代藩主の妻、満姫の

菩提寺。

▼広島東照宮(広島市東区二葉の里)

浅野光晟が慶安元年(一六四八)に

造営

▼三滝寺(広島市西区三滝山)

「三滝観音」として親しまれてい

る真言宗の寺院。

▼海蔵寺(広島市西区田方)

曹洞宗の寺院。毛利時代には、家

臣の草津城主虎玉氏の菩提寺であった。

▼その他

草津八幡神社、小泉本店(酒造家)

等を探訪する予定。乞うご期待!

五月 歴史講演会

《日時》五月二十六日(土)

午後二時〜四時まで

《場所》福山市本町

市民参画センター

《講師》田口義之会長

《会費》無料

□古事記を読む 五月十二日(土)

午後二時 福山市民図書館

□中世を読む 五月十九日(土)

午後七時 市民参画センター

□古墳講座 五月二十六日(土)

午後七時 市民交流センター

備陽史探訪の会事務局 ☎七〇〇八四

福山市多治米町五一十九一八

☎〇八四(九五三)六二二五

e-mail:taguni@post.plu.or.jp